

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和2年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度（評価）
A：十分達成できている
B：おおむね達成できている
C：やや不十分である
D：不十分である

学校名		唐津市立七山小中学校		C：やや十分である D：不十分である	
1 前年度 評価結果の概要		・学力向上へ向けて全職員で公開授業を行い、指導形態が確立しつつあるので、家庭学習の定着を含めた学力向上への取組を継続したい。 ・教職員の業務効率化が高く、児童生徒理解のために時間を有効に使えた。			
2 学校教育目標		「感謝の心を持ち、自立に向かう子どもの育成」 ～お互いを「おもいやり」、ひとりひとりが「輝き」小中一貫教育を通して自ら学び・考える力を伸ばし、自己実現を目指す～			
3 本年度の重点目標		① 学力向上 ② 生徒指導と心と体の教育の充実 ③ 開かれた学校づくり ④ 新型コロナウイルス等の感染症対策			
4 重点取組内容・成果指標		5 最終評価			
(1)共通評価項目					
重点取組			最終評価		
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	達成度 (評価)	実施結果
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師90%以上	・校内研究推進委員会の組織を充実させるとともに、研究主題及び重点的な取組事項を明確にする。 ・昨年度までの研究実践を生かし、校内研修、授業研究のさらなる充実を図る。	A	・小中ともに学習状況調査の分析を行い、授業や家庭学習などにおいて、3月までにできる取組を明確にし、引き続き実践を継続するよう職員に働きかけた。 ・来年度の研究の方向性をまとめ、基本となる柱を作成する。
	○ 学習規律指導の一貫性の向上	○自ら意欲的に学習に取り組んでいると答える児童生徒を90%以上にする。	・学習の3構え（心構え・物構え・身構え）への意識向上とともに、全校児童生徒が徹底できるよう全職員で指導に当たる。 ・授業の構えの取組、家庭学習習慣の確立について保護者に周知する。	A	・学習・家庭学習アンケートをもとに、家庭学習の内容の工夫や学習規律の見直しなどを行った。 ・今年度作成したワークシートや教材等のまとめ、引継ぎを確実に行うよう呼びかけている。
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○人権について真剣に考えることができる。(90%以上) ○道徳の授業で自分の考えを持ち、発信することができる。(90%以上) ○他者の多様な考え方をしっかり聞くことができる。(90%以上)	・各ブロックで人権教室を月1回計画的に実施する。 ・考え議論する道徳授業の実践を図り、評価の仕方についても研修を深める。	A	・人権教室については、年度途中から形態を集会からリモートに変更したが、ほぼ実施することができた。 ・通知表や要録の評価に向けて、所見の記述や評価の仕方等の資料提供を行った。 ・他校の「道徳だより」を参考に、各クラスで「コロナ差別」についての授業を行った。 ・中学校では、副担任と交互にローテーション授業を行い、様々な意見に触れさせることができた。
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○いじめの解決、解消(100%)	・「Q-U」、「いじめアンケート」、中学生に「心のアンケート」を実施し、児童生徒理解に努める。 ・日常の児童生徒観察に努め、問題行動に対してチームで早期に対応するとともに、保護者との連携を図る。	B	・「いじめアンケート」「心のお天気アンケート」、中学生に「心のアンケート」を実施し、それを元に細やかな教育相談、問題の対応を関係職員と連携し解決に向けた対応を行うことができた。 ・定期的に支援が必要な児童生徒の情報交流を行い、指導に生かすことができた。
	○異年齢集団の活動の充実	○小中一貫教育でよかったと感じることができる(児童生徒、保護者、学校職員、地域関係者の各90%以上)。 ◎夢や目標に向かって努力しようとする気持ちを育む活教育活動の充実	○感謝の気持ちや自らの目標などについて他者に伝えることができる。(80%以上)	・児童生徒会本部と専門委員会とが連携して自治活動を行い、校内の行事を充実させる。 ・歓迎遠足、体育大会、ボランティア活動等を通して、異年齢集団での活動を充実させる。また、地域との関わりの中で行う行事において、地域を大切に思う心を育てる。 ・学級指導を中心として、目標実現のための具体的な実践について指導していく。 ・6年生では卒業プロジェクト(感謝を伝える活動)、7年生では立志式を実施することで、将来へ向かう志を持たせる。	B
●健康・体づくり	①「運動習慣の改善や定着化と運動意欲の向上」 ②「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	①授業以外で運動やスポーツを行う時間が1週間で420分以上の児童生徒80%及び体を動かすことが好きだと答える児童90%以上 ②「健康に食事は大切である」と考える児童生徒80%以上	①休み時間の運動場、体育館の割り当てをし、施設を有効活用させることで、進んで運動する場を設定する。 ②食事に対する意識と接種栄養素に対する知識を高めさせ、好嫌いなく、マナーを守った食事ができるようにする。	A	①休み時間や昼休みににおいて、児童生徒がそれぞれの場所で、安全に運動する場面が多く見られた。 ②1年間を通して、コロナ対応による新しい生活様式に伴い、給食時のマナーや座席等を工夫することができた。また、児童生徒会の専門部活動において、昼の放送で栄養素や地場食材の紹介など工夫しながら発信できた。その結果、健康に食事が大切であるとする生徒が91%となった。
	○安全・安心な教育活動の推進	○食物アレルギー対応能力の向上 ○登下校時の児童生徒の事故ゼロ。	・食物アレルギーについての職員研修を行うとともに対象保護者との連携を強化する。 ・卵、エビアレルギー対応食の月カレンダーをランチルームに表示する。 ・危険マップの更新、通学路の安全点検を実施する。	A	・年度当初に全教職員で研修を行い、対応マニュアルに従って、迅速に対応することができた。来年度も、当事者の保護者を講師として、共通理解のもと対応能力の向上を図りたい。 ・保護者や地域の方々への危険箇所の調査を行い、随時、危険マップを更新することができた。また、地区児童会により安全確認を行った。
	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・各職員が毎日及び月の勤務時間を把握できるように、業務記録管理ソフトの有効活用を図る。 ・県、市で示された部活動一斉中止日を実行するとともに、定時退勤日を設定する。	A
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目					
重点取組			最終評価		
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	達成度 (評価)	実施結果
○危機管理	○新型コロナウイルス等感染症の対応	○緊急連絡体制としての学校メール登録180%(全保護者)及び連絡 ○緊急事態における教育活動の調整及び確保	・全保護者に対してメール未登録者へ個人的に相談する。 ・行事の精選及び主要行事の実施 ・学習機会の確保	B	・メール未登録者に働きかけ100%以上の登録者となった。また、コロナ感染症対応のお知らせなど、はなまる連絡帳により広報活動ができた。 ・集会活動など、リモートによる集会を企画し、リモートで実施できるようになり、密になる場面を極力少なかった。
○開かれた学校づくり	○地域との連携による学校教育のさらなる充実 ○保護者・地域各機関と連携した児童生徒の見守り	○参観授業ができにくい状況であるため、学校だよりや学級通信、はなまる通信等により情報発信を行う。(少なくとも隔週に1回発行する。) ○新型コロナウイルス感染症の対応により、三密を遵守しつつ、育友会専門部活動に積極的に参加し、連携を充実させる。	・学校だよりやHPにより情報発信を行うとともに、地域との交流や地域行事等への協力を行う。 ・育友会への情報発信を随時行いながら、三密になることがないような連携してできる活動に絞りながら、積極的に活動する。	A	・1年間を通して、学校だより、学級だよりはもちろんのこと、ホームページやはなまる連絡帳を充実させ、学校のように保護者、地域に発信できた。 ・スクールサポーターの援助もあり、毎日の消毒活動がしっかりとできている。また、学校内外に関わらず、マスクを着用することやタオルの個別化を現在も、推進、啓発しているところである。
●・・・県共通 ○・・・学校独自 ◎・・・志を高める教育					
・本年度は唐津市の学力向上指定校2年目となり、全職員で研究授業を重ねて研鑽を積み、授業公開を実施することができた。この気運を下げることなく、一層学力向上に向けて小中連携した授業づくりに励んでいかなければならないと考える。また、食物アレルギー、気になる児童生徒、問題行動等について日ごろから小中職員全員で情報共有を行い、関係機関や保護者とも連携して対応してきたので、次年度も継続して取り組みたい。特にアレルギー一事案等、予測がつかないものもあるので、日頃から危機意識を持って児童生徒の指導に当たることが大切になりたい。また、学校の情報は事細かにはなまる連絡帳によって保護者に伝えただことで、学校行事等への保護者の関心が高く、協力を得ることができた。職場では電子媒体を駆使した業務効率化が大変功を奏しており、職員の業務効率も確実に上がっている。このように時間を有効に使い、児童生徒の指導に寄り添った教育を次年度も続けていきたい。					
5 総合評価・ 次年度への展望					